



学生時代にハチに刺されて失神した際の命の恩人、勝部早苗先生と
= 2000年、島根県出雲市

でないとかかんみたい」と誘導するわけです。おやじは京大出身だったので、京大を挙げたら、母親は「大阪で医者をやろうとする」と、京大出身はいじめられるらしい」と言うのです。後から思えば、下宿をさせなくなかったんでしょう。そういう事情で自然と阪大医学部にきました。

——**医学生**の頃は紛争が盛んでしたね。

郡 2年生に入る直前の1月から11月まで大
学が封鎖されました。その間、出雲市郊外の
立久恵峽に友人5、6人と行って、6匹のスズ
メバチに刺されて急に失神しました。山奥で葉
がないところへ、たまたま通りかかったのが旅
館の仲居さんでした。その旅館に出雲市から圍
碁を打ちに来ていた男性の外科医の勝部早苗先
生が「池の水を思いつきり手足にかけよ」と指
示されたようです。ハチで亡くなる理由は末梢
の血管が開くためです。みんなに池の冷たい水
をかけられて末梢の血管が収縮して、意識が
戻って助かったんです。帰宅したあと、両親は
出雲市まで、すぐお礼に行きました。勝部先生
なくして、今の僕はいません。感謝の日々です。

郡 東大阪市花園、昔の河内に1949年1月
に生まれ、育ちました。花園ラグビー場がある
ところ。周りが田んぼの中で朝から晩まで
野球が遊びをしていました。しょっちゅう忘れ
物をして、走って5分のところの自宅まで取り
に帰っていました。今も東大阪市の実家に母親
と兄夫婦が住んでいます。母親は95歳ですが、
私以上にたくしゃくとしています。今、名古屋
で自由に仕事ができるのも、母と兄夫婦の3人
のおかげです。算数が得意で、足が速くて運動
会で活躍していました。子どもの頃から人と同
じことをするのが嫌いで、みんなと違うことを
やっていました。母親は私の性格をよく知って
いて、泌尿器科医になった時も「お願いやから、
教えられた通りに手術してや」と諭されました。

——**大阪府立高津高校に通いましたね。**

郡 母方の祖父が高津高校の元校長だったこと
から、教育熱心な祖母に勧められて、高津高校
に入りました。兄も妹も同じコースをたどりま
した。高津高校は制服も補習授業もなく、「自
由と創造」が校風でした。午後3時になったら
「好きなことをせよ。夏休みは自分たちで考え
てやれ」でした。自由に人と違うことを考える
私にぴったり合っていました。

——**なぜ医学部に入ったのですか。**

郡 兄は医師になるのを希望していました。た
だ、小児ぜんそくで、かかりつけ医や、医者だっ
た

郡 ノンポリでしたが、政治や経済に関心は
持っていました。今の若い人たちは政治経済に
関心が薄い。学生たちと話していると、新聞を
読まず、社会の動きを知らないうちに、この風潮を
危惧しています。物事を知らないまま、考え方
が論理的でなく、断片的すぎます。

——**封鎖が終わったらハードな勉強でしたか。**

郡 封鎖も長引き、夏ごろから勉強しなくなり
ました。封鎖解除後は6年まで春休みも夏休み
もほとんどありませんでした。学生時代は尺八
をやっていました。門田守人先生（日本医学会
長）が尺八クラブの3年先輩でした。大阪の中
之島にあった医学部を卒業後、麻酔科に行きま
した。紛争の影響で入局制度はありませんでし
た。自分たちだけで勉強会やバイト探しもやる
わけです。内科、外科を問わず、麻酔科は全身
を診るため人気があり、麻酔をしていいうちに
進路を決めるのがはやっていました。同級生の
うち20人も麻酔科に行きました。麻酔科で1年
間、全身を診たのは意味がありました。今も何
か目前に起きたら、命を助ける自信があります。

——**それから泌尿器科に入ったのはなぜ？**

郡 外科系の多くは、年配の先生が主に手術を
します。20年ぐらいたたないと手術ができない
のに比べ、泌尿器科は若い医者でもすぐ手術さ
せてもらいました。阪大泌尿器科の園田孝夫教
授はアメリカ帰りで、37歳の若さで教授になっ
た方です。白衣姿も格好良く、ウイットに富

た叔父の往診を常に受けていました。小学生の
頃、季節の変わり目はいつも「ヒューッ、ヒュー」
と苦しんでいました。とにかく、ちよつと運動
をすると、次の日、必ずぜんそくの症状が出ま
した。母親は、兄が崇高な気持ちで抱いていた
医学部志望を断念させて、理学部に行かせまし
た。逆に僕は「理学部の数学か物理をや
りたい」と思っていました。1965年に朝永
振一郎先生がノーベル物理学賞を受賞して、僕
も「京大理学部に行く」と思っていました。そ
うしたら、ぜんそくに苦しむ兄から「俺な、や
めるけれど、おまえ、医者になれ」と言われ、
僕は志望を医学部に変えました。「ぜんそくで
死ぬんじゃないか」と心配していた兄は、スト
レスがなくなったら、その後めちゃくちゃ元気
です。

——**母に導かれて阪大医学部に**

郡 僕は、緑豊かな大学で伸び伸びと過ごした
いと考えていましたが、母親は「医者は、地元

み、人気がありました。同級生約10人が泌尿器
科に行きました。園田先生の奥さんは阪大薬学
部出身で、僕の父親の郡定之が勤めていた製薬
会社にいたのです。実習を受けた際、園田先生
から「郡か、知つとるぞ」と声をかけられまし
た。それも泌尿器科を選んだ理由でした。

——**反骨を胸に近大で結石を研究**

郡 阪大病院には一度も勤めることなく、自宅
に近い東大阪市立市民病院で泌尿器科医として
スタートしました。僕は一貫して反骨的なこと
ろがありました。多くの人が希望する阪大泌尿
器科よりも、主体的に任される東大阪でやる方
が楽しいですよ。嫌というほど毎日たくさん
の手術をしました。上司や同僚に恵まれ、地元
の知人に喜ばれました。当時は、結石や前立腺肥
大にも開腹手術をしていました。現場で思いき
り修業した2年半はその後の礎になりました。

——**次は新設の近畿大医学部の助手ですね。**

郡 阪大出身の栗田孝先生が36歳で教授になっ
ていました。僕は根っから研究が好きです。研
究をしたくて近大に行きました。栗田先生は、
園田先生に輪をかけて自由でした。好きなこと
をさせてもらえ、何も言われませんでした。栗
田教授以下8人の教官はハングリー精神が旺盛
で、「阪大以上の仕事をしよう」が合い言葉で
した。ある時、1期上の先生が「ここに手術を
しに来たのではない。研究をしたい」と言った
ら、栗田教授は翌日「4つにグループ分けする。

Medical Who's Who

vol.193

名古屋市立大学理事長・学長
公立大学協会会長

こおり
郡 健二郎



聞き手/ジャーナリスト 小川 明

自由な河内で伸び伸び育つ

郡 東大阪市花園、昔の河内に1949年1月
に生まれ、育ちました。花園ラグビー場がある
ところ。周りが田んぼの中で朝から晩まで
野球が遊びをしていました。しょっちゅう忘れ
物をして、走って5分のところの自宅まで取り
に帰っていました。今も東大阪市の実家に母親
と兄夫婦が住んでいます。母親は95歳ですが、
私以上にたくしゃくとしています。今、名古屋
で自由に仕事ができるのも、母と兄夫婦の3人
のおかげです。算数が得意で、足が速くて運動
会で活躍していました。子どもの頃から人と同
じことをするのが嫌いで、みんなと違うことを
やっていました。母親は私の性格をよく知って
いて、泌尿器科医になった時も「お願いやから、
教えられた通りに手術してや」と諭されました。

——**大阪府立高津高校に通いましたね。**

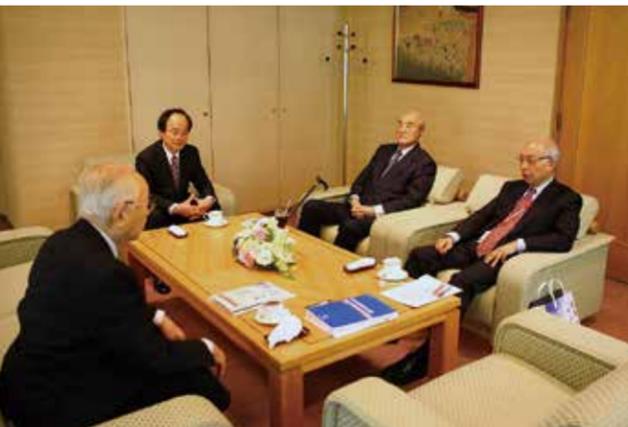
郡 母方の祖父が高津高校の元校長だったこと
から、教育熱心な祖母に勧められて、高津高校
に入りました。兄も妹も同じコースをたどりま
した。高津高校は制服も補習授業もなく、「自
由と創造」が校風でした。午後3時になったら
「好きなことをせよ。夏休みは自分たちで考え
てやれ」でした。自由に人と違うことを考える
私にぴったり合っていました。

——**なぜ医学部に入ったのですか。**

郡 兄は医師になるのを希望していました。た
だ、小児ぜんそくで、かかりつけ医や、医者だっ



3歳の頃、きょうだい家族と。前列左
端。後列の左端と右端が両親。前列中
央が祖母、後列中央は叔父= 1952年



日本泌尿器科学会総会で鼎談に招いた中曾根康弘元首相、垣添忠生日本対がん協会会長（右端）、渡辺恒雄誌売新聞主筆（手前左端）と＝2011年

結石は八竹直助教授（後に旭川医科大学長と郡）と提案されました。結石グループには後に同級生の井口正典先生（大阪府、市立貝塚病院名誉院長）が加わり、近大で一旗揚げた気概でした。

——設備や研究費は十分ありましたか。

郡 近大の世耕政隆総長が見識ある人で、「医学研究者を育ててくれ」と言われ、研究設備は良かったです。設備を使える技師さんもいっぱいいました。「世界に発するような研究をせよ」といつも励まされました。マグロ養殖に成功した今の近大の先駆けでした。僕は実力を発揮しやすい、余裕のある組織で、自由に活動するのが好きでした。論文や人物を評価する時は、大きな組織より小さな組織の研究について目を向けてしまいます。

——尿路結石の成因が研究テーマでしたね。

郡 カルシウムが多くなると結石ができるという論文がアメリカから出たんです。八竹先生は「追試したら」と指示されました。一生懸命研究しましたが、尿にカルシウムが多くなっても結石ができないんです。それらの結果をまとめた博士論文はデータの量がすごかったためもあり、吉田修京大教授（後に奈良県立医科大学長）が評価して日本泌尿器科学会坂口賞に思いもかけず選んでくださいました。

結晶学を超え有機物質に着目

郡 「結晶」の研究のため、英国の南マンチェスター大学に日本学術振興会と英国との交換研

感染が原因でできる結石のことで、容易に碎石できます。アヴィセンナは導尿の方法を開発したアイデアマンですが、注意深く患者さんを観察する大切さを教えられます。アヴィセンナはヒポクラテスやガレノスと並ぶ医師の3大偉人とされています。

分子生物学で結石の成因解明

郡 結石は、腎臓の尿管の中で結晶が詰まってできると考えられていました。僕は、尿管の中を流れる尿はものすごく速いことから、その定説に疑問を抱いていました。結石は、「結晶が尿管の細胞につららるように付着してできるのでは」と考えました。そこで、腎臓組織の中にマトリックス成分があると考えて、結石の中のタンパク質の抗体を作成して遺伝子をクローニングし、その塩基配列を突き止めました。

究生として1年間留学しました。英国に行ったのは妻の洋子が欧州を好きだったからです。当時の結石研究は、「結晶」がどうしたら大きくなるか小さくなるか、その競い合いでした。

——人類は尿路結石と長い付き合いですね。

郡 結石は古くから知られており、約7000年の歴史があります。紀元前4800年のエジプトの13歳ミイラから、ぼうこう結石が見つかっています。今日では、日本人の男性で7人に1人は生涯に1度、尿路結石になります。女性には14人に1人くらいです。北欧などは20%が結石になっています。急激に増えています。後に私たちのグループが解明したことで、増加の主因は脂肪の摂取過剰です。美食、飽食が結石を作ります。石は体外からの衝撃波で割れるようになりましたが、「できれば結石を溶かしたい。食生活で予防したい」と考えて、基礎研究を続けてきました。

——結石の成分はどんなものですか。

郡 九十数%が無機物質です。18世紀の中ごろに無機物質の同定法が開発されてカルシウムなどが見つかっています。日本人が一番多いのがシュウ酸カルシウムです。残りの数%が有機物質です。これに目を向けたのが僕のオリジナルな着眼点です。当時は、欧米どこでも無機物質に注目していたので、展望は開けませんでした。「結石」は「結晶核ができて成長して凝集」します。その3つのプロセスを経て最後に結石になるわけです。前の3つのプロセスは試験管内

その実体はオステオポンチンでした。固定観念に疑問を持ち、あきらめなかった成果です。

——分子生物学を駆使した成果でしたね。

郡 1992年に発見しました。当初は抗体を作って、結晶と有機物質の関係を知らなかったんです。抗体を作る際、いろんな方にお世話になりました。1人でこうした研究はできるわけがありません。遺伝子のクローニングでは、近大の生化学の鈴木敦夫先生らに感謝しています。結果的に、この分子生物学的方法が良かったのは、オステオポンチンはカルシウムとの結合や電荷が強くて電気泳動しても流れないからです。電気泳動などの生化学的方法では分離精製できなくて、遺伝子クローニングで攻めていくしか取れなかったんです。

——オステオポンチンは既知でしたね。

郡 オスは骨という意味で、ボン（ポンス）は橋という意味です。骨の細胞とリン酸カルシウムをつなげる物質だということで、1987年に見つけられたタンパク質でした。当時は遺伝子クローニングがまだ難しい時代でしたが、幸いにも1回でできました。近大で年間700件の手術に明け暮れていた時で、高津高校の2年先輩の鈴木先生が「手術に行つていい。あとはやっつくから」と親切にしばしば言ってくれました。1回でできたのは運が良かったと思います。

——オステオポンチンは体のどこにありますか。



留学先の英・南マンチェスター大学の同僚たちと。左端。右端が妻の洋子さん＝1986年

のことなので、詳しく研究されていました。しかし、結石になる最後のプロセスは生体内の話で、難しく、誰もわかっていなかったんです。

——結石の形成の原理から考えたんですね。

郡 シュウ酸とカルシウムでは「結晶」ができません。「結石」はできません。そこに有機物質のマトリックスが加わると結石になるという仮説を立てたわけです。石垣に例えると、石が結晶で、石の間のセメントがマトリックスです。最終的狙いは、セメントを溶かせばごろごろと石が壊れてくるというシナリオです。これは僕の夢です。結石の碎石術をしていて判明したことです。マトリックスが多い結石ほど硬いことがわかり、自分の説が裏付けられてうれしかったです。しかし、調べてみると、11世紀の医師・大学者だったアヴィセンナが「澄んだ尿の結石は硬く、濁った尿の結石は軟らかい」とすでに言っていました。濁った尿の結石とは、

郡 予想通り、オステオポンチンは腎臓の尿管細胞にありました。阪大の病理の野村慎太郎先生（現・長浜バイオ大学教授）と北村幸彦先生（現・阪大名誉教授）に指導していただきました。吉岡加寿夫先生（故人、近畿大小児科教授）や清藤勉免疫生物研究所社長、中学校の同級生の中西俊博サントリー研究所長らのおかげで、ラッキーに研究が進みました。ほかのタンパク質もありましたが、オステオポンチンが一番重要です。

名古屋で研究の旅を続け実証

郡 名古屋市大病理の伊東信行教授（後に名古屋市立大学学長）が阪大病理の松本圭史教授（当時・大阪府立母子保健総合医療センター総長）を通じて「名古屋市大にこないか」と声をかけてくださいました。伊東先生も含め、誰一人知らない名古屋でした。名古屋市大に来て研究は遅れましたが、抑制遺伝子の導入や、遺伝子欠損、遺伝子組み換えマウスの実験で、オステオポンチンが結石を形成するのに欠かせないことを実証しました。オステオポンチンの分子構造には、カルシウムとの結合部位や細胞との接着部位がありました。結石を作るために存在するようなタンパク質でした。結石のでき始めも電子顕微鏡で観察することに成功しました。オステオポンチンがなくても、結晶はできますが、結石にはなりません。ここがみそです。尿路結石の概念を根本的に変えたと思います。



名古屋市立大の留学生懇談会で= 2017年

帰ったんです。その收拾役として病院長に担ぎ出され、7回謝罪会見をしました。教室がようやく軌道に乗り始めた頃で、教室員の協力を得て、和が育ったと思います。医学部長の時も、事件で大変な危機に直面しました。警察や学内外からの批判の矢面に立つてつらかったです。

—— 試験を数々経験した後の学長ですね。

郡 2014年に学長になって、「大学憲章」と「名市大未来プラン」を全学で作りました。若い頃、理学の必要性を感じたことから、2018年に総合生命理学部を開設しました。7学部ある総合大学です。名古屋市からの運営費交付金は、2006年に公立大学法人になった時が96億円、ボトムが63億円で、3分の2に下がっていました。私が学長になって3年目に70億円まで回復しましたが、本年から始まった第三期中期計画の6年間に100億円まで増や



名古屋市立大泌尿器科のメンバーと= 2014年

ラットにえさで脂肪を過剰に与えると結石ができたり、抗酸化物質やお茶で結石が予防できたりすることを発見しました。細胞レベルで見ると、ミトコンドリア障害が起きて、酸化ストレスで結石ができることも確かめました。ミトコンドリアを障害させない物質を与えると、結石はできないんです。オステオポニンチンの抗体を作って投与しても、結石ができなかったんです。最近、炎症を抑制するマクロファージで結石ができなくなることも見いだしました。ミトコンドリアやマクロファージ、オステオポニンチンと、創薬のタネはいっぱいあります。これらの研究を基に創薬するよう製薬会社に勧めても、みんな逃げていきます。もっと勇氣を持ってほしいですね。

—— 学閥と無関係に教授になりましたね。

郡 1993年に名市大の教授になって、研究室も人も十分な状況でしたが、2、3年たつと、優秀な若い医師がいっぱい来て研究が盛んになっていきました。最初は、ほこりの中で泌尿器科を立ち上げる感じでしたが、結石以外の幅広い臨床と研究にも取り組みました。教室から教授もたくさん出ました。自由な発想を評価するやり方は、近畿大の栗田孝先生に学びました。

—— 最近、前立腺がんが急増して診療が増え、泌尿器科はどこも患者であふれています。

郡 全国的に泌尿器科が魅力的な時だと思えます。学長になる人も増えています。人口の高齢

す計画を名古屋市から得ました。何をすることも資金は必要です。

—— 公立大学協会の会長もしていますね。

郡 2017年から任期2年で務めています。公立大学はどんどん増えて、全国で92大学に上ります。国立大学協会と比べれば小さな組織ですが、大学は国立の86大学より多いですから、国会議員の関心は高くなって、2016年に国立大学振興議員連盟に公立大学特別委員会が設けられました。公立大学が、国立や私立と並んで活性化するように努めています。

—— 恩師はどなたですか。座右の銘は何ですか。

郡 まずは命の恩人の故・勝部早苗先生です。次は故・園田孝夫先生と故・栗田孝先生です。ほかにも、多くの方々にお世話になりました。最終講義ではタイトルを「凌雲之志」と掲げました。サブタイトルとして「人に支えられ、人を育て、人に尽くす」としました。それが信条です。「社会に役に立つ人になってほしい」との父の言葉を心に抱いてきたからです。聖徳太子の「和以貴為(和

化が進み、病院経営にも泌尿器科が寄与しています。ただ、泌尿器科でがんを専門にする人が多くなりすぎています。結石や排尿、生殖を専門とする研究や教授が必要です。

—— 宇宙で結石予防の試験もしましたね。

郡 長期の宇宙飛行は寝たきりに近い状態になり、骨代謝異常と尿路結石になりやすいことは知られていました。骨粗鬆薬のビスフォスフォネートの試験を国際宇宙ステーションで実施したところ、結石の予防効果がありました。今では、希望する宇宙飛行士には長期間有効なビスフォスフォネートが用いられています。

名市大の発展に情熱を注ぐ

郡 河邊香月東大名誉教授や岡田謙一郎福井大名誉教授、岡田正阪大名誉教授ら多くの先生方が各学術賞に推薦してくださいました。いずれも、思いがけないご推薦でした。深く感謝しています。東日本大震災直後の2011年4月には名古屋で第99回日本泌尿器科学会総会を開きました。会長として、開催するか、迷いましたが、「こんな時だからこそ、開催した方がよい」と皆さんに励まされ、参加者も約7000人と過去最高になり、盛況でした。

—— 病院長や医学部長の要職を歴任しました。

郡 僕は51歳で病院長をしました。1999年に横浜市大で患者取り違えがありました。名市大でも2000年に事故が起きて、厚生労働省の担当者が来てベテランの病院長を罵倒して

をもって貴しとなす」も好きな言葉です。

—— 近著の科研究費に関する本は好評ですね。

郡 運営費交付金が減っている中で科学研究費の獲得は重要ですが、若い人がじっくり研究できる環境がなくなっています。そこで「科研究費が採択される3要素 アイデア・業績・見栄え」(医学書院)を2016年に上梓しました。研究者に好評で、増刷しています。

—— 医療の環境も随分変わりましたね。

郡 名古屋市には市民病院が2つあります。それが大学病院になれば、名市大病院のベッド数は計1800になります。症例や論文の数と質を上げるには病院を強くすることが必要です。在宅医療や介護なども視野に人工知能(AI)や予防にも広げて、認知症対策を立て、道筋をつけるつもりです。

郡 健二郎 (こおり けんじろう)

- 【略歴】
- 1949年 大阪府東大阪市生まれ
 - 1973年 大阪大学医学部卒
大阪大病院麻酔科研修
 - 1974年 東大阪市立中央病院泌尿器科医員
 - 1977年 近畿大学医学部泌尿器科助手
 - 1983年 近畿大学医学部泌尿器科講師
 - 1985年 英国・南マンチェスター大学に留学
 - 1993年 名古屋市立大学医学部泌尿器科教授
 - 2001年 名古屋市大病院院長 (~03年)
 - 2005年 名古屋市大医学研究科長・医学部長 (~09年)
 - 2014年 名古屋市大理事長・学長
 - 2018年 公立大学協会会長
- 【受賞】
- 1981年 日本泌尿器科学会坂口賞
 - 1999年 中日文化賞
 - 2004年 日本医師会医学賞
 - 2005年 杉田玄白賞 (福井県小浜市)
 - 2008年 紫綬褒章
 - 2009年 東海テレビ文化賞
 - 2015年 日本泌尿器内視鏡学会カールストルツ賞
 - 2018年 日本泌尿器医学功労賞